

# 後期計画策定にかかる諮問書手交式

2026.3.24 18:30～

場所：北館4-1会議室

## <式次第>

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 諮問書の手交・写真撮影

2026.3.24

尼崎市総合計画審議会  
第4回総会

資料第1号

# 後期計画策定に向けた検討状況について

尼崎市 都市政策課

## 本日の趣旨

- これまで審議会にて複数回にわたり議論いただいた「**第6次尼崎市総合計画点検報告書**」を市議会への報告を経てとりまとめた。
- 今後「点検報告書」の内容を踏まえながら、庁内各局と議論を重ね、総計審に諮る中で、具体的な計画内容の検討を進める予定
- 4月以降に開催する審議会において、よりスムーズに計画内容の議論に入ることができるよう、これまで事務局において検討してきた現状分析や課題の整理、検討内容を共有し、今後の方向性について意見交換を行いたい。

# タイムテーブル

**0. 後期計画策定に係る諮問書手交式 . . . . . 18:30~18:50**

---

**1. 後期計画の策定に向けた情報共有と意見交換 . . 18:50~20:20**

- ① 本市の人口動態とファミリー世帯の分析
- ② ファミリー世帯向けアンケートの分析
- ③ EBPMの視点に基づく新たな行政評価の仕組みづくり

**2. 今後のスケジュール案 . . . . . 20:20~20:30**

# これまでの経緯経過

- 「点検報告書」について、総計審委員の皆様  
様に最終確認いただいたのち、**市議会へ点  
検報告書の概要を報告**
- また、来年度の後期計画策定に向けて、  
**「EBPM（科学的根拠に基づく政策立案）  
に基づく行政評価の仕組みづくり」**につい  
て、予算案を提出し、市議会において予算  
審議いただいている。（詳細は後ほどご説明）
- これらの内容を踏まえた**市議会や庁内会議  
での意見について、まずはフィードバック  
させていただく**

## EBPMに基づく行政評価の仕組みづくり

### 事業イメージ

後期計画の策定に際し、EBPM推進の観点を盛り込み、実効性のある  
評価手法の検討、指標の設定を試行する。

#### 【事業の内容】

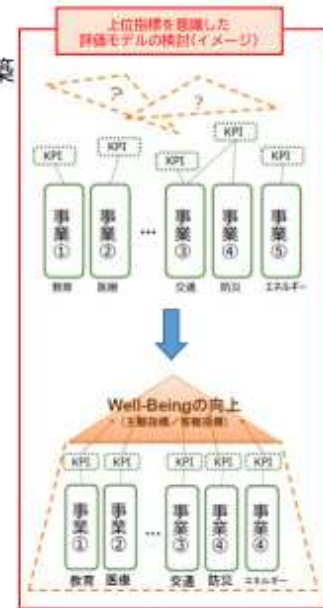
- 総合計画に基づく新たな政策評価制度の構築
  - ・新たな評価モデル・手法の構築
  - ・新たな評価指標の検討・設定
  - ・現行の指標からの移行に関する調整

#### ○導入・運用

- ・実効性の高い評価手法の設計
- ・現課での評価モデル運用の仕組みづくり
- ・運用に向けた職員向け研修の実施
- ・実装時の伴走支援・マニュアルの作成等

#### 【目指す姿】

- ・エビデンスベーストな評価・議論
- ・職員の政策立案の質の向上
- ・質の高い事業評価と効果的な事業の見直し
- ・納得感と実効性のある行政評価の確立
- ・KPIを意識した日々の業務の推進



# これまでの経緯経過（議会・庁内会議での意見）

## 市議会の主な意見のフィードバック

	議会の主な意見
1	現行のPDCAと新たに検討する「EBPMに基づく行政評価の仕組みづくり」は、どのように関係してくるのか（→後ほどご説明）
2	各種事業を実施してきたにも関わらず、ファミリー世帯の減少傾向に変化がない理由は。（→後ほどご説明）

## 庁内会議の主な意見のフィードバック

	庁内会議での主な意見
1	この5年間の変化を踏まえ、児童相談所の開設や官民連携によるゼロカーボンベースボールパーク・中央公園のリニューアルなど、新たな施策内容を計画に反映する必要がある。
2	DXへの向き合い方が、この5年で大きく変化しており、行政内部だけでなく市民サービスも含めた取組を、施策の新設も含めて検討する必要がある。

# 点検結果を踏まえて検討をすすめてきた内容

## <点検作業において整理した現状認識やご意見>

- ① 単身・二世帯が市内に転入した後、ファミリー世帯となり定住しているかの分析が必要。
- ② ファミリー向け住宅供給との関連を含めたファミリー世帯の転出要因についての分析が必要。
- ③ 現状、3つの最上位指標（総合指標）「ファミリー世帯の転出超過数」、「市民参画指数」、「住んで良かった」を設定しているが、下位の指標との相関が不明確で、上位指標への効きが実感しながら評価できる行政評価の仕組みの検討が必要。
- ④ デジタル庁が推進する「地域幸福度（Well-Being）指標」は、地域の幸福度や市民の暮らしやすさを可視化できる手法として参考になる。



①

本市の人口動態と  
ファミリー世帯「総数」の分析



②

ファミリー世帯向け  
アンケートの実施・分析



③・④

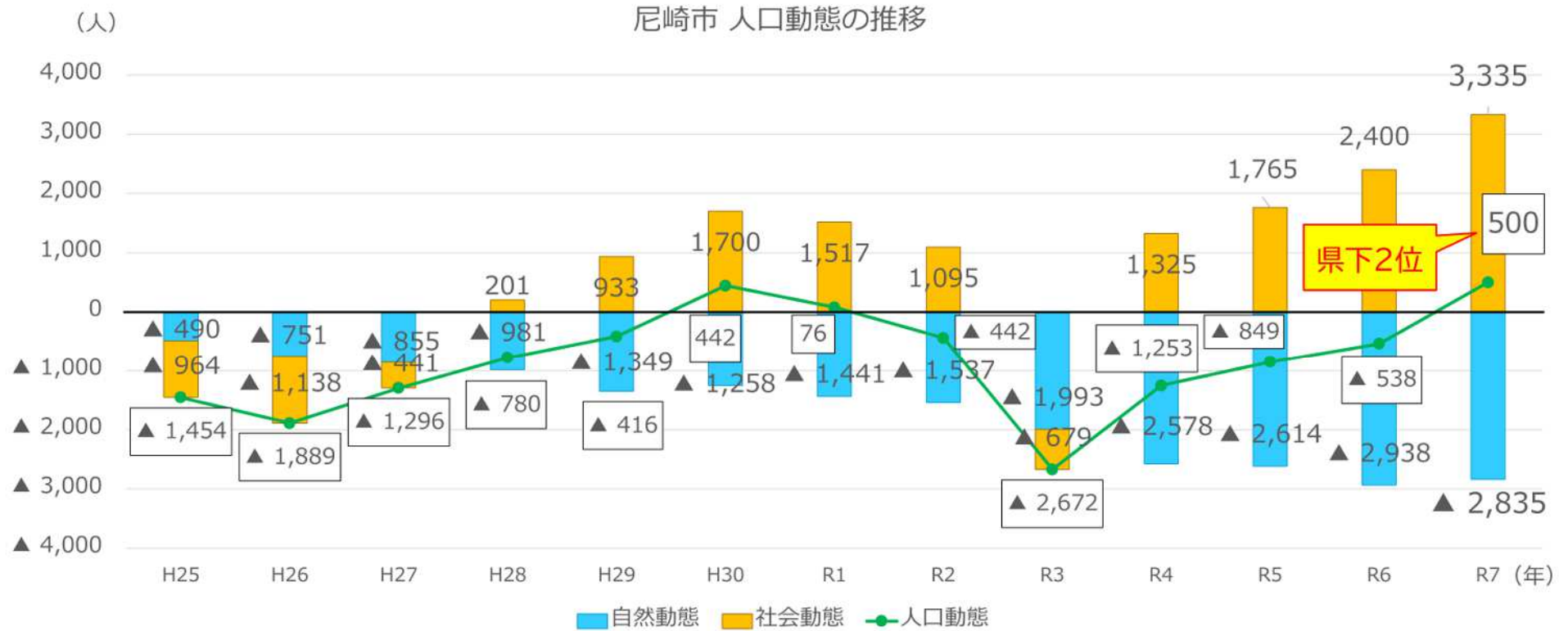
EBPMの視点に基づく  
新たな行政評価の仕組みの検討

これらの現状分析や検討内容を共有し、今後の方向性についてご意見をいただきたい



# 令和7年中の本市の人口動態

# 人口動態（平成25年～令和7年）



## 人口動態におけるポイント

- ①社会増が拡大し、**3,335人の転入超過**に（社会増は**県下2位**！日本人に限れば**県下1位**！）
- ②自然動態は**▲2,835人の減**と横ばい
- ③差し引きで**500人の「人口増」**に転じた（増加数は**県下2位**！）

※ 兵庫県「推計人口」を基に集計

# 自然動態（平成25年～令和7年）



## 自然動態におけるポイント

①出生、死亡ともに横ばいで、大きな変化なし

出生数微増・死亡数微減となり  
自然動態は下げ止まり

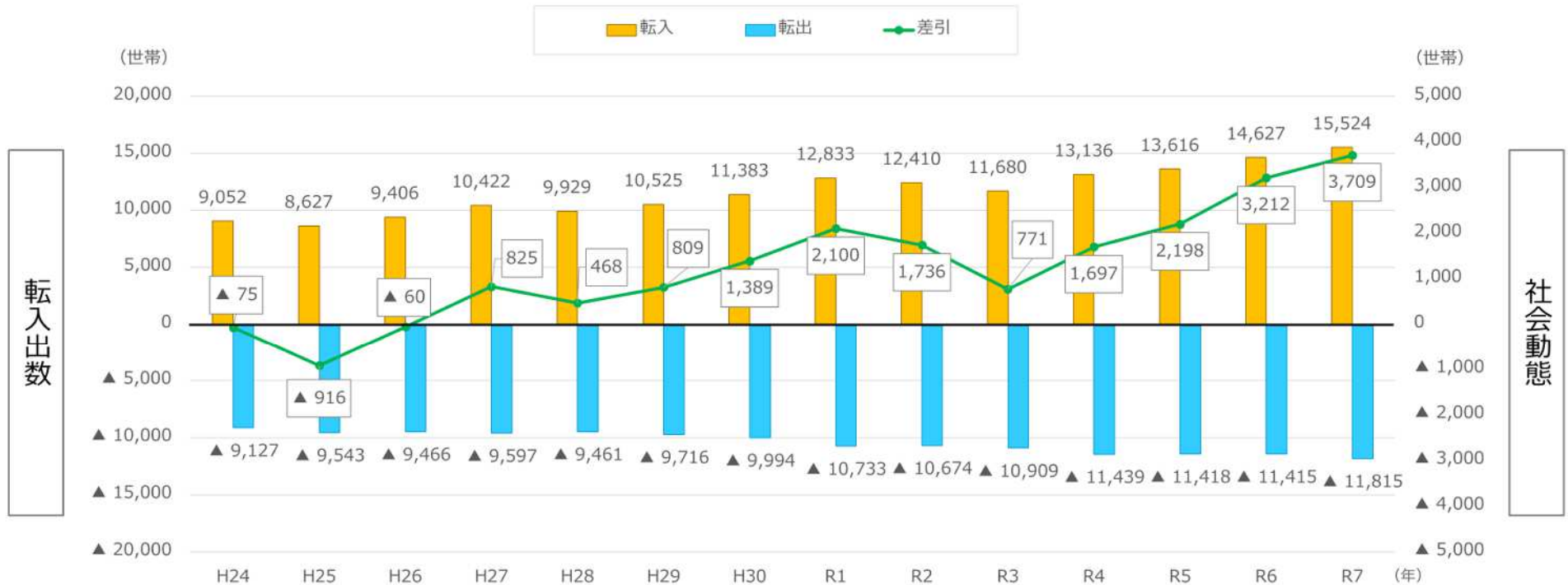
# 社会動態（平成25年～令和7年）



## 社会動態におけるポイント

- ①（再掲）社会増がさらに拡大し、全体で**3,335人の転入超過**に
- ②転入・転出ともに増加しているが、転入の増加が大きく、転入超過が拡大

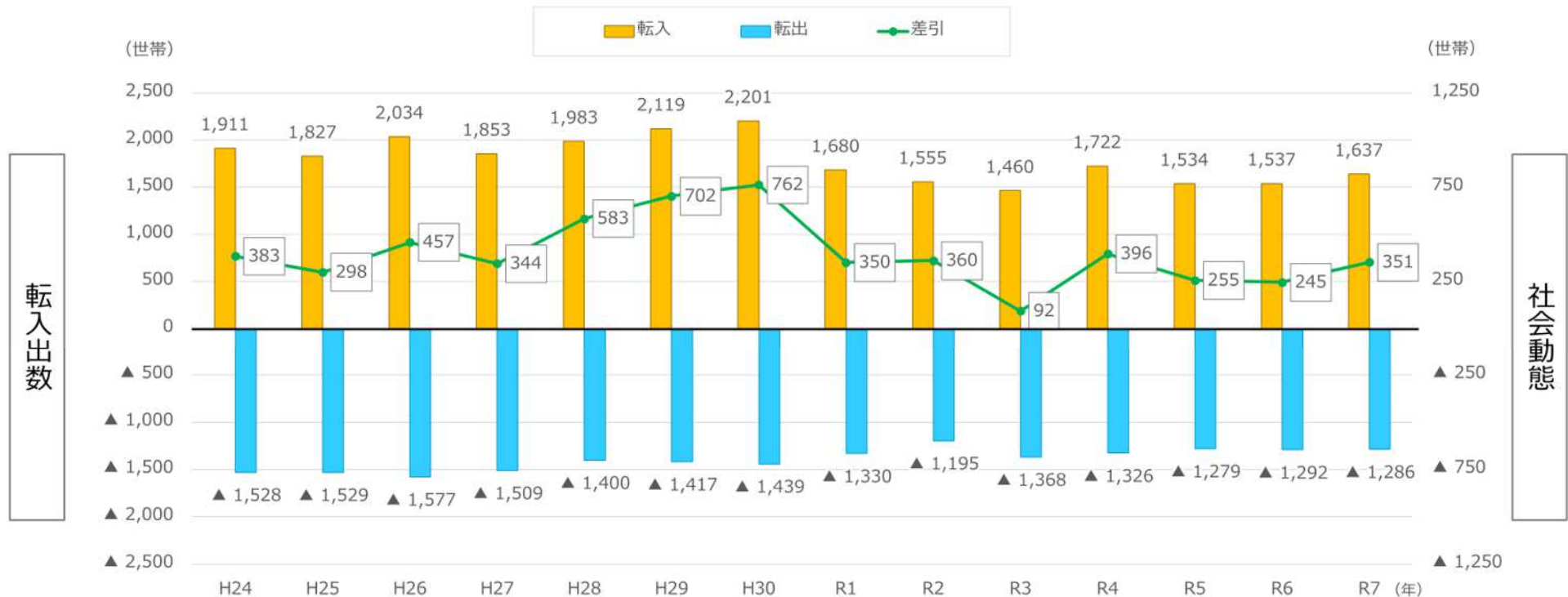
# 単身世帯の社会動態（平成24年～令和7年）



## 単身世帯の社会動態におけるポイント

- ①単身世帯の転入超過が3,709世帯に拡大
- ②単身の転入者は、20代が多く、西宮市・神戸市からの転入超過が多い
- ③単身の転出者は、大阪市・東京圏への転出超過傾向が見られる

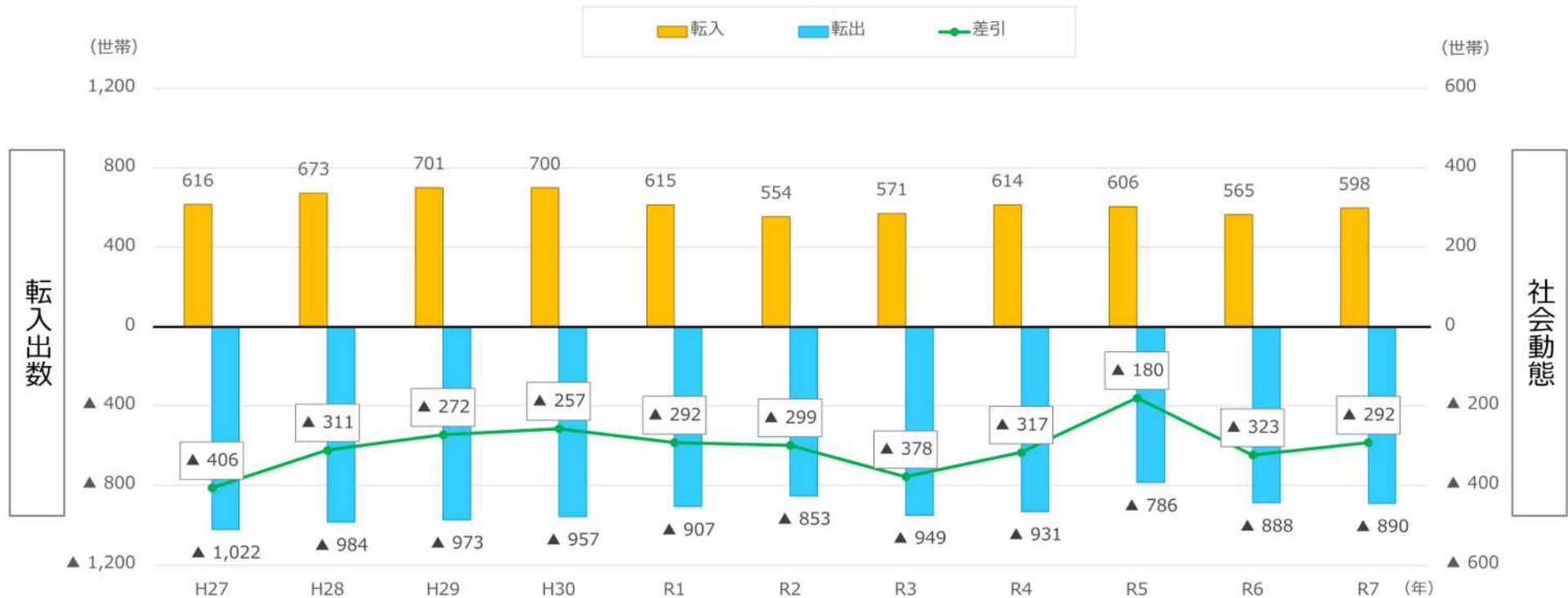
## 二人世帯の社会動態（平成24年～令和7年）



### 二人世帯の社会動態におけるポイント

- ①二人世帯の**転入超過**が**351世帯**に拡大
- ②二人世帯の転入は、**20代及び30代前半**が多い
- ③二人世帯は、**大阪市からの転入超過**が大きい。また、**伊丹市への転出**が増加

# ファミリー世帯の社会動態（平成27年～令和7年）



## ファミリー世帯の社会動態におけるポイント

- ①ファミリー世帯の転出超過数は、▲292世帯で、昨年から横ばい
- ②ファミリー世帯は、**大阪市からの転入超過**が続いている

# 県内自治体の状況

	人口増減	自然増減	社会増減
兵庫県	▲ 28,780	▲ 37,735	8,955
伊丹市	647	▲ 777	1,424
<b>尼崎市</b>	<b>県下2位 500</b>	<b>▲ 2,835</b>	<b>県下2位 3,335</b>
明石市	252	▲ 707	959
芦屋市	▲ 658	▲ 626	▲ 32
川西市	▲ 716	▲ 1,194	478
宝塚市	▲ 1,009	▲ 1,565	556
西宮市	▲ 1,232	▲ 1,739	507
姫路市	▲ 2,959	▲ 3,317	358
神戸市	▲ 6,447	▲ 11,226	4,779

## 【尼崎市の人口が増加】

尼崎市の人口増+500は県下トップクラス

## 【人口が増加した県内自治体は4市町のみ】

- 1位 伊丹市 +647人
- 2位 尼崎市 +500人
- 3位 明石市 +252人
- 4位 播磨町 +94人

## 【尼崎市の社会増】

社会増+3,335人も県下トップクラス

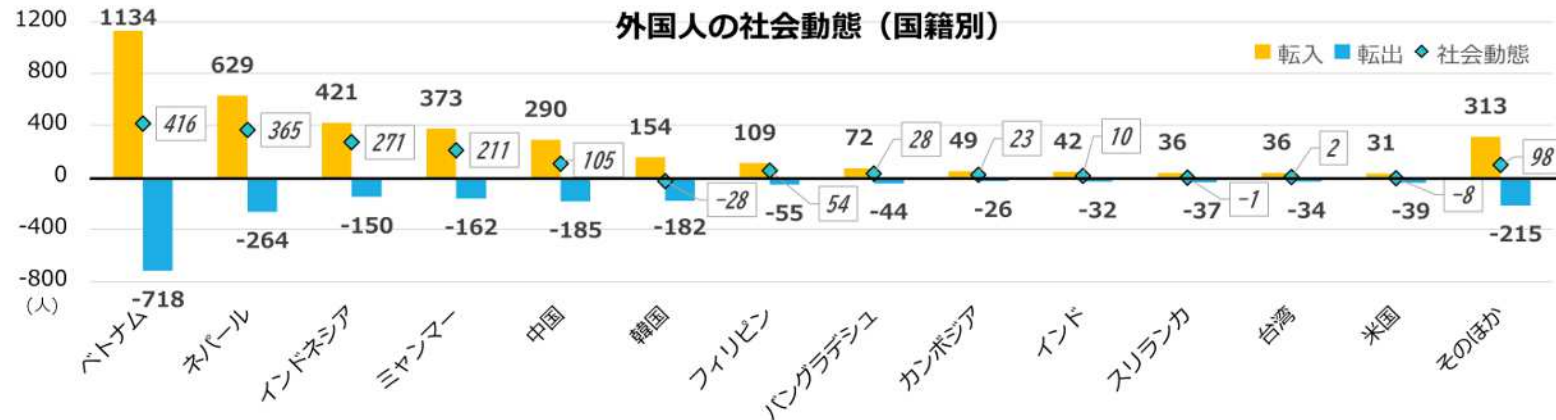
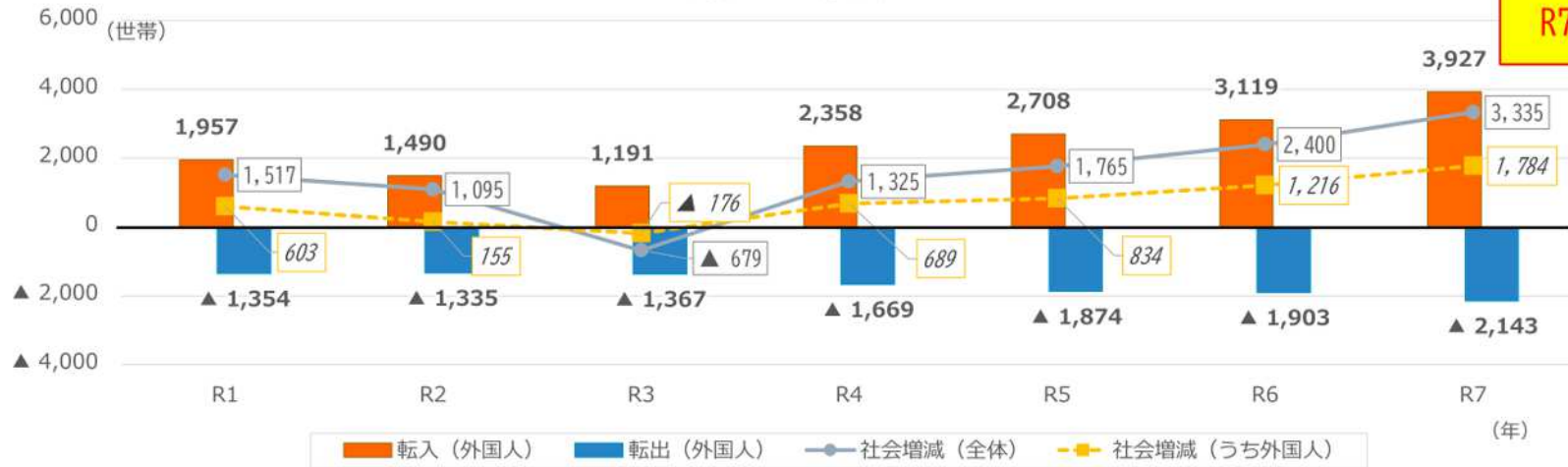
## 【県内の社会増の上位5自治体】

- 1位 神戸市 +4,779人
- 2位 尼崎市 +3,335人
- 3位 伊丹市 +1,424人
- 4位 明石市 +959人
- 5位 宝塚市 +556人
- 6位 西宮市 +507人

参考

### 外国人の社会動態

R7は速報値



### 外国人の社会動態におけるポイント

- ① 尼崎市の外国人の社会動態は、速報値で1,784人の増(速報であり、今後数値は変動)
- ② 社会増全体は、3,335人。そのうち、半数程度は外国人による増である
- ③ 社会増が大きい国は、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマーの順である

# ファミリー向けアンケートの結果について

現在、アンケート結果の詳細分析中であり、  
暫定版となります。  
当日資料でご説明いたします。

# 調査結果まとめ

## 【転居のきっかけ】

- ・「住宅購入」「子ども」などのライフイベントがきっかけで転居する傾向

## 【現在の居住地に住み続ける理由】

- ・転居の必要がない
  - ・現在の居住地に満足している
  - ・持ち家・ローンのため
- 一度居住すれば理由なく転出しない可能性

## 【通勤時間】

- ・市内在住者は「15-30分」が多い。平均通勤時間は、大阪・兵庫の平均より短い
  - ・市外転出者は「60分以上」が最多
- 通勤に関する本市の優位性が確認できる。市外転出で通勤利便性は悪化する

# 全体まとめ

## 【居住地選択で重視する項目】

- ・ **住居**（広さ・費用など） / **立地・アクセス**（通勤時間等）を**最重視**
- ・ **買い物・飲食**（生活利便性）が**次点**

※ ただし、「尼崎市を選んだ方の回答」として解釈すること

## 【転出理由について】

- ・ これまで、本市は「治安・マナー」「教育」といった分野に対する不満等により、ファミリー世帯が転出すると考えてきた
  - ・ それは誤りではないが、今回の調査結果を踏まえ、より詳細に分析すると以下となる
- ① 転居のきっかけは子どもの成長等に伴う、住宅の購入・住み替えである
  - ② その際に最も重視するのは「住居（広さ・費用）」「アクセス」「利便性」である
  - ③ 治安等は「より良い住環境」の一部として見られるが、「ファミリー世帯の居住地選択の理由」に占める重要度は上位ではない可能性

# お願いしたいこと

## ここまでの内容

- ・ 本市の人口動態
- ・ ファミリー世帯の分析
- ・ ファミリー世帯の転入・転出の要因 などについて

コメントやご意見等がありましたらお願いいたします



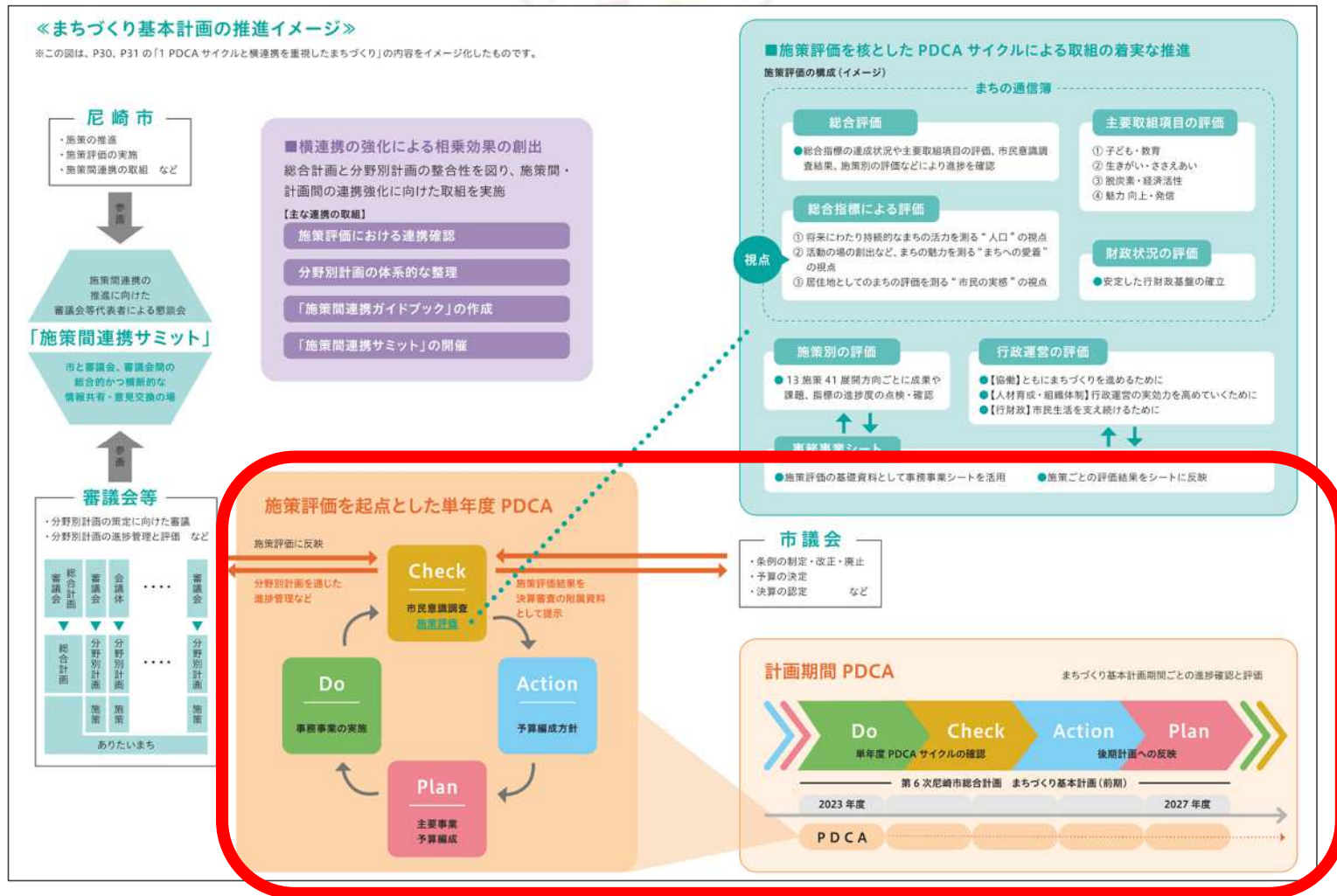
# EBPMの視点に基づく 新たな行政評価の仕組みづくり



# 現行の行政評価の仕組み

# 現総合計画のPDCAの手法

## 「単年度PDCA」（＝施策評価）とそれを積み重ねた「計画期間PDCA」



# 事務事業評価

中事業ごとに指標を設定し、事業を評価する仕組み

人件費も含めたフルコスト算定を実施している。

令和6年度事務事業シート(令和5年度決算)

事務事業名	学びと育ち研究所運営事業	30BP	性質	03 学校教育
種別	---		業務方向	03-1 様々な学力の保証と確かな体づくり
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成29年度		
会計	01 一般会計			
科	15 児童学			
項	10 児童福祉費			
目	02 児童福祉施設費			

期	こども青少年局	科	こども青少年課	所長名	浅田 崇之
---	---------	---	---------	-----	-------

① 事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象 者の成果)	子ども一人ひとりの状況に応じ、真社会を主体的に生きていく力を伸ばしているよう、科学的根拠(エビデンス)に基づき政策立案に活かすための研究を行う。
事業概要	研究所が実施する多様な実践、中長期的な効果測定を通じて、科学的根拠に基づき政策研究等を行う。
実施内容	1 尼崎市学びと育ち研究所の運営 平成29年4月に設置した「尼崎市学びと育ち研究所」で、所長を首の8人の研究員(大学教授等)が、市や教育委員会が保有するデータの分析及び関係機関と連携した実践研究を行っている。 研究テーマ「教育環境が学力に与える影響」「幼少期の教育の質が入学後の学力や健康に与える影響」等 令和5年度は、中長期的な取組として引き続きデータの管理・分析を行うとともに、新たな研究員1人を迎え、新規研究2年を開始した。また、平成30年度から令和4年度に行った保育の質を評価するOEERI調査の分析結果について、関係職員を対象とした研修を行った。 2 研究所報告会の開催 令和5年8月23日に研究の進捗等を報告する「学びと育ち研究所報告会」をオンラインで開催した。 3 滋賀大学との共同研究 本市におけるEBPM推進のため、滋賀大学との共同研究を行っている。

② 事業成果の指標

指標	---(適切な成果指標及び活動指標の設定は困難)				単位	---
指標・実績	目標値	達成年度	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
達成状況	【成果と課題】目標に対する達成状況: ---					
事業成果 (達成状況等)	<p>また、平成30年度から令和4年度に行った保育の質を評価するOEERI調査の分析結果について、関係職員を対象とした研修を行った。</p> <p>研究所の知見を生かし、低体重出生児の保護者向けの「あまっすくすく手帳」及び小学1年生の保護者向けのパンフレット「科学に基づく子育てのヒント」を改訂し配付した。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <p>子ども・教育分野の課題解決に向け、データ検証等の協力を積極的に進めていくとともに、研究の成果を教育・行政現場で活かしていくよう、研究所報告会の内容を工夫する。</p> <p>研究所の取組は本市に先駆けた事業であり、本市の魅力として引き続き発信していく。</p>					

③ 事業費

	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算	備考
事業費 A	2,168	2,359	2,350	2,654	
経費費	407	275	163	278	研修講師、アドバイザー等への謝礼
経費費	726	768	245	149	PC等の事務経費購入
委託料	201	319	425	1,042	研究所報告会及びパンフレットの作成
研修料	290	256	363	331	コピー使用料及びzoom使用料
その他	544	741	1,154	754	滋賀大学授業料、研修講師の旅費等
人件費 B	11,892	7,588	4,225	6,669	
職員人工費	1,54	0,99	0,55	0,85	
職員人件費	11,892	7,588	4,225	6,669	
委任等入件費					
合計 C(A+B)	14,060	9,947	6,575	9,323	
の の の の の					
経費	14,060	9,947	6,575	9,323	

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ学び  
 施策番号: 01 - 01

1 基本情報

地域名	01 地域コミュニティ学び	展開方向	01 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進
実施機関	総合政策課		

2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R1)	目標値 (R5)	実績値				
				R1	R2	R3	R4	R5
A 「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合	1	7.1 %	13.1	—	—	7.1	13.3	12.8
B 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合	1	15.6 %	30.0	19.3	15.3	15.6	14.4	14.4
C 「制度などに参加して学んだことを地域や社会のために活かしたいと考えている参加者の割合	1	78.1 %	90.0	—	—	78.1	81.2	82.0
D 地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合	1	24.7 %	30.0	25.5	20.4	24.7	28.9	29.1
E 市民1人あたりの貸出冊数	1	3.15 冊	5.87	3.23	2.78	3.15	3.00	3.11

3 主要事業一覧

令和5年度 主要事業一覧	
1	大庄西中学校跡地の整備(大庄西中学校跡地整備事業、公費負担事業)
2	生涯学習活動の推進(生涯学習活動の推進事業、生涯学習活動の推進事業)
3	読書を通じたまちづくり学び事業(図書館行事事業)
4	
5	
令和6年度 主要事業一覧	
1	東田倉給子防犯安全事業(生涯学習プラザ等整備事業)
2	大庄西中学校跡地活用等整備事業
3	市民のまちづくり活動の推進(市民のまちづくり活動の推進事業)
4	地域課題にかかわる各種支援策の実施(地域課題支援推進事業)
5	
令和4年度 主要事業一覧	
1	
2	
3	
4	
5	



5 担当部署

総合政策課(市民生活課、生涯学習課、図書館、生涯学習プラザ)

【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支える仕組みづくり】  
 (目的)多様な主体がそれぞれの強みを生かして、地域課題の解決や市民の生活の向上を図る。地域の課題解決や市民の生活の向上を図る。  
 (成果)①地域コミュニティの活性化に向け、地域の方々にとって関心が高まるテーマを入口として地域活動の参加へとつながることを目的に、全ての地域課題において防災をテーマとした取組を行った。重点では、地域主体で2つの自主防災会合同の防災訓練が実施され、地域課題の丁寧な対応により、防災意識の高まりとともに地域活動への参加に向けた意欲の醸成が図られた。(目標指標B)  
 ②地域発生の取組を今後も増やしていくために、中央では生涯学習プラザ以外の施設でプラットフォームを開設し、新規の参加者を増やす工夫をするなど地域課題の解決のプラットフォームで解決方法を発見した。(目標指標B)  
 ③地域課題を地域の課題として相互理解を深めたことで、各団体に連携した取組を進める環境ができた。そうした中、小田では新たな地域福祉推進の取組として、生涯学習と協働し、地域住民が楽しみながら進捗が速くなる学び「生涯まつり」を実施した。  
 (課題)①②コロナ禍以降の地域活動の減少、特に地域発生の活動が減少している状況について、改善に向けた方策を講じた。  
 ③今後も地域特性に応じた事業実施や活動支援が可能なよう、地域に出向く情報収集を行うとともに、地域情報共有サイト(あましまあ)や市民意見調査の分析結果などを活用した情報活用による取組を進める必要がある。  
 ④地域発生の取組の推進から5年が経過し、地域担当職員の入れ替わりも生じている。目指す方向性や業務の範囲等をスムーズに共有する必要がある。

【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】  
 (目的)学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと歩きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指している。  
 (成果)①本市が目指す「生涯、学習！」の理念が伝わるようなみんなの思統大学大学案内の作成など、自己の体験や学びがまちの課題解決にもつながっていくような取組が実施された。(目標指標A、B、C)  
 ②地区での特色ある取組として、大庄地区では、協働型公園の構築に向けて、社会実験「Enjoy JOHNSON COFFEE」を開設した。社会実験は、大庄西中学校跡地活用に向けた意見交換会やワークショップの開催を通じて丁寧な協議を重ねてきたことにより、サポーターが主体的に自由な発想で企画・実施することができた。(2日間で2,500人参加)  
 (課題)①興味・関心を入り口とした活動への広がりが生まれた。活動への参加意欲があるがうまくつながっていない方が、まちのいたる所で展開されている学びや活動が豊富で、情報の把握や発信の手法など対策が必要がある。  
 ②一部のサポーターメンバーから公園の維持管理に対する不安や社会実験の必要性に対する疑問の声があり、目指すべき協働型公園の理念の浸透を進め、担い手の育成を図る必要がある。

【地域と学校の連携・協働の推進】  
 (目的)地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。  
 (成果)①コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進を図るとともに、コーディネーターの配置を小学校41校、中学校1校に加え、新たにコミュニティスクールを導入した中学校3校においても行った。また、中学校においては、これまでも地域との連携により青少年の健全育成を目的に実施してきた中学校区健全育成協議会事業を生かし、より幅広い目的で地域との連携事業を実施する地域学校協働活動への移行を支援し、全17校で実施することができた。また、地域課題との連携によるキャリア教育や防災訓練、まち探検等が実施され、特色ある活動につながった。(目標指標D)  
 (課題)①令和7年度全市域でのコミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進を図るため、関係者や地域住民等に協働の取組について継続的に情報収集し、活動への参加の機会を広げる必要がある。また、学校管理職、教員に対しても、地域人材の活用が子どもたちの学びの充実や教員の負担軽減につながることを積極的に説明し必要を図る必要がある。

【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービスの充実】  
 (目的)資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生産にむかひ学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書館サービスの充実を図る。  
 (成果)①図書館での事業の実施や貸出冊数などを経路の把握に基き利用促進に努めた。記本所の指定管理会社と図書館連携推進委員会や市民の協働推進委員会との連携について検討・調整を進めた。(目標指標E)  
 (課題)①なおさらさらの機会を通じて図書館に親しみ協働を創出する施策を実施し、利用者の増加を図る必要がある。「思統市立図書館基本の運営方針」が計画年度の中間年度にあるため、新市立図書館の整備や図書館機能の充実などを見据えた改訂を行う必要がある。

6 評価結果

【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支える仕組みづくり】  
 ①②地域課題など多様なプラットフォームにおいて交流が活発になるに伴い、「あましまあ」や市民意見調査によるエリア分析の活用など、地域活動への参加する市民を増やすための様々な工夫が注力を行うことで、引き続き、地域発生の取組が促進して生まれ環境を整えていく。  
 ③④テーマ型や協働型の活動がとくに活性化し、これらが協働した取組が生まれるような状況を目指し、まずは、それぞれの活動者をつなぐ支援する取組を進める。  
 ⑤自治のまちづくりに向け、市民のまちづくり活動の推進を図るとともに、改善に向けた方策を講じた。  
 ⑥改めて確認・整理を行い、地域担当職員の目指す方向性を明確にし、より効果的な取組を行う。

【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】  
 ①興味・関心を入り口とした学びや活動に参加する意欲や魅力を増やるとともに、活動情報や市民活動に有益な支援情報を含めた情報発信の在り方について検討を進める。  
 ②協働型公園の理念の丁寧な説明を続け、社会実験で得た検証結果や課題をサポーターメンバー等と共有し、ルールづくりや公園の維持管理に向けた取組を進めるとともに、新たな自治の推進事例として全庁的に共有を図る。

【地域と学校の連携・協働の推進】  
 コミュニティスクールの導入に合わせ、コーディネーター未設置校にも派遣配置するとともに地域課題の推進による学校支援を行う。また、地域学校協働活動に係る経費の削減や、学校現場との共有を図り、各学校の強みを生かした取組につながるよう支援する。

【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービスの充実】  
 ①市立小学校及び特別支援学校の児童・生徒に対し電子図書館の活用を促し、各学級におけるタブレットを活用した学習活動や家庭での読書活動を推進する。新市立図書館の整備について検討を進めるとともに、「思統市立図書館基本の運営方針」について中間評価を踏まえた改訂に取り組む。

7 今後の見込み

【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支える仕組みづくり】  
 ①②地域課題など多様なプラットフォームにおいて交流が活発になるに伴い、「あましまあ」や市民意見調査によるエリア分析の活用など、地域活動への参加する市民を増やすための様々な工夫が注力を行うことで、引き続き、地域発生の取組が促進して生まれ環境を整えていく。  
 ③④テーマ型や協働型の活動がとくに活性化し、これらが協働した取組が生まれるような状況を目指し、まずは、それぞれの活動者をつなぐ支援する取組を進める。  
 ⑤自治のまちづくりに向け、市民のまちづくり活動の推進を図るとともに、改善に向けた方策を講じた。  
 ⑥改めて確認・整理を行い、地域担当職員の目指す方向性を明確にし、より効果的な取組を行う。

【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】  
 ①興味・関心を入り口とした学びや活動に参加する意欲や魅力を増やるとともに、活動情報や市民活動に有益な支援情報を含めた情報発信の在り方について検討を進める。  
 ②協働型公園の理念の丁寧な説明を続け、社会実験で得た検証結果や課題をサポーターメンバー等と共有し、ルールづくりや公園の維持管理に向けた取組を進めるとともに、新たな自治の推進事例として全庁的に共有を図る。

【地域と学校の連携・協働の推進】  
 コミュニティスクールの導入に合わせ、コーディネーター未設置校にも派遣配置するとともに地域課題の推進による学校支援を行う。また、地域学校協働活動に係る経費の削減や、学校現場との共有を図り、各学校の強みを生かした取組につながるよう支援する。

【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービスの充実】  
 ①市立小学校及び特別支援学校の児童・生徒に対し電子図書館の活用を促し、各学級におけるタブレットを活用した学習活動や家庭での読書活動を推進する。新市立図書館の整備について検討を進めるとともに、「思統市立図書館基本の運営方針」について中間評価を踏まえた改訂に取り組む。

# 施策評価

13施策について、2~4つの展開方向に分類。

分類ごとに5つ程度の指標を設定

定性評価も記載

次年度の政策・予算へ反映

# 1

## 地域コミュニティ・学び

### 1 現状と課題

#### 現状(成果)

**自治のまちづくりの推進**  
平成28年(2016年)10月にまちづくりのルールである「尼崎市自治のまちづくり条例」を制定しました。

**シチズンシップの向上とシビックプライドの醸成**  
まちづくりの推進に当たっては、一人ひとりが当事者としてかかわっていくというシチズンシップの向上、地域に対して誇りと愛着を持つシビックプライドの醸成が重要であるという認識のもと、まちの魅力向上、課題解決に向けてさまざまな取組を推進してきました。

**地域資源体制の再構築**  
「尼崎市自治のまちづくり条例」の理念にもとづき、小学校区に1人の地域担当職員を配置し、地域資源情報を分野やエリアごとに検索できるサイト「あましまあ」なども活用しながら多様な主体間との関係づくりや地域発達の課題解決、魅力向上に向けた取組を推進しています。

**学びと活動の拠点整備**  
「市民の交流・学習」、「子どもの育ち」、「教職員の人材育成」が有機的に連携した「あまがさき・ひと咲きプラザ」を整備するとともに、公民館と地区会館を学びと活動を支えるための施設である生涯学習プラザとして市内12か所に整備し、学びの機会の充実や活動の創出などに取り組んでいます。

**地域資源を生かした文化振興**  
本市では「文化ビジョン」を策定し、過去から受け継がれてきた伝統的な祭りや行事、本市ゆかりの文化人などさまざまな地域資源を生かし、まちの魅力と活力の向上に向けた文化振興に取り組んでいます。

**歴史博物館の展覧**  
令和2年(2020年)10月に文化財収蔵庫と地域研究史料館の機能を併せ持つ歴史博物館を開館しました。歴史博物館は、豊かな歴史や文化を理解し、未来を展望する学びの場として歴史遺産を後世に伝える役割を持ちます。

**「スポーツのまち尼崎」に向けて**  
本市では市制施行80周年(1996年)に「スポーツのまち尼崎」を掲げ、令和元年度(2019年度)に策定した「スポーツ推進計画」にもとづき、生涯スポーツの推進と、競技力の向上に取り組んでいます。

#### 主な課題

**地域コミュニティの醸成に向けた取組**  
地域における人と人とのつながりが希薄化する一方で、インターネットやSNSの普及により人々のライフスタイルが多様化しています。そういった状況において、地域発案や共感、相互理解が広がり、地域におけるつながりの大切さを再認識していくことが課題です。



**まちに学びをまき起こす**  
地域の魅力向上、課題解決に向け、自発的な学びが大切であることから、これまで「みんなの尼崎大学」など学びの環境づくりを行ってきましたが、今後も地域の学びのプラットフォーム機能の充実・強化が求められます。

**文化・歴史・スポーツに触れる機会の増加**  
文化・歴史・スポーツの発展のためには、「見る」「する」「伝える」という視点を踏まえ、誰もがこれらに触れる機会を十分に確保し、学びや活動を支える環境づくりを行い、地域資源としての魅力を創出し、高めしていく必要があります。また、施設の維持管理や運営体制の充実が課題です。



**博物館・図書館・公文書館機能の有機的な連携**  
文化的な情報資源の収集・蓄積・提供という共通の役割を担う、公文書館の機能を有する歴史博物館と図書館はより使いやすくなり親しみやすい施設となるために有機的な連携が課題です。

### 施策目標

まちにかかわるすべての人が、ともに学び、考え、お互いの力を出し合う自治のまちづくりを推進することで、まちへの愛着を深め、魅力あふれるまちをめざします

### 2 施策の展開方向

#### (1) 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進

- ①多様な主体による地域発案の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり
- ②まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり
- ③地域と学校の連携・協働の推進
- ④図書館を通じた市民の学習活動の支援、交流の機会の提供や図書館を拠点とする図書館サービス網の充実

#### (2) まちの魅力を高める文化芸術活動の推進

- ①若い人の夢とチャレンジの応援
- ②はぐまれてきた歴史・伝統・文化の継承・発展
- ③市民の芸術体験を支える取組の推進

#### (3) 歴史遺産の継承と学びの充実

- ①尼崎の歴史に触れ学ぶ機会の拡充と魅力の発信
- ②歴史遺産を守り、活用しながら継承していく取組の推進
- ③地域の歴史を学び、活動する市民を支える取組の推進

#### (4) スポーツに親しむ機会の充実

- ①ライフステージや体力などに応じた生涯スポーツの推進
- ②各種スポーツ大会・イベントを通じた競技スポーツの推進

### 3 施策の進捗状況を測る代表指標



**個別別マスタープランなど**  
尼崎市立図書館基本計画  
文化ビジョン  
スポーツ推進計画

**個別別マスタープランなど**  
【地域振興】多文化共生 尼崎市人文文化いきづくらづくり計画、尼崎市国際化基本方針  
【学校教育】尼崎市教育委員会基本計画  
【子ども子育て支援】尼崎市次世代育成支援対策行動計画  
【地域福祉】あまがさき地域福祉計画  
【高齢者支援】尼崎市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画  
【健康増進】地域いきいき健康プランあまがさき  
【防災・防犯】尼崎市地域防災計画、尼崎市防災保護計画、【環境保全・創造】尼崎市環境基本計画  
【まちづくり】尼崎市のまちづくり基本計画、尼崎市まちづくり計画、尼崎市まちづくり条例、尼崎市まちづくり条例の施行規則

# 13施策とその代表指標

## 市の事業を13の施策に分類し、それぞれに代表指標を設定



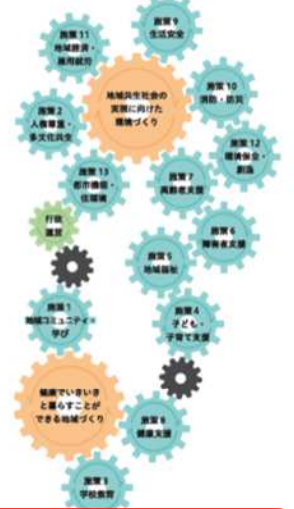
**子ども・子育て支援の充実**  
 待機児童対策を強力に推進するとともに、ファミリー世帯のニーズに応じた支援策の充実を図るなど、子どもを育てる人や子どもを望むすべての人が安心して産み育てられる環境づくりに取り組みます。  
 また、貧困の連鎖の解消に向け、困難を抱える子ども・若者に対する支援を継続するとともに、子ども家庭総合支援拠点である「いくしあ」と一体となった居場所らしい児童相談所\*の設置に向けた準備を進めるなど、子どもファーストを基本としつつ、ファミリー世帯を包括的に支援します。

**子どもの教育の充実**  
 個々の伸びやつまづきに寄り添った学習支援や科学的根拠にもとづく先進研究による学力向上の取組を継続するとともに、幼保小連携の推進など就学前教育の研究・実践の取組、インクルーシブ教育システム\*の推進などに取り組みます。  
 また、地域とともにある学校づくりをめざし、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）\*の全市展開を推進します。  
 安全・安心な教育環境の確保に向けては、いじめなどの未然防止、早期発見、早期解消に向けた取組や体罰根絶に向けた取組を徹底します。  
 さらに、ユースカウンスル\*の実践などを通じて、若者の主体的な活動を支援します。



**地域共生社会の実現に向けた環境づくり**  
 地域で世代や分野を超えてつながり、安全・安心を実感し、支えあえる社会の実現に向け、複雑化・複合化した課題を抱える人への重層的支援\*の推進や、年齢、性別、障害の有無、国籍などにかかわらず、誰もが尊重され、活躍できる環境づくりに取り組みます。また、近年、頻発している大規模な自然災害などに備え、市の防災対策の強化や地域防災力の向上に取り組めます。

**健康でいきいきと暮らすことができる地域づくり**  
 平均寿命が延びるなか、生涯を通して健康でいきいきと暮らすことができるよう、自身の健康に対する意識を高めるとともに、それを気軽に行動に移せる環境づくりが重要です。  
 市民の健康寿命\*の延伸に向け、より若い世代から望ましい生活習慣を獲得できるよう、「ヘルスアップ総戦略」\*によるライフステージに応じた健康づくりへの支援の充実を図ります。



# 主要取組項目 施策を連携して 優先で取り組む 4項目とその指標

1. 子ども・教育
2. 生きがい・ささえあい
3. 脱炭素・経済活性
4. 魅力向上・発信

## 2 まちづくりの総合指標

「ありたいまち」の実現に向けて、まちづくりを進めるに当たっては、その目標にするとともに、それらをまちづくりにかかわる主体と共有し、絶えず取組の振ら進めていくことが重要です。本計画では、主要取組項目や施策ごとに指標を測るとともに、まちづくり基本計画全体の進捗を総合的に測る「まちづくりの3つの視点」で設定しました。

### 視点1 将来にわたり持続的なまちの活力を測る“人口”の視点

#### 指標 ファミリー世帯の転出超過数

まちづくり構想の「2本市の状況」にも記載のとおり、本市では、子育て中のファミリー世帯の転出超過が課題となっています。そのなかでも、特に大幅な転出超過になっている5歳未満の子どもがいるファミリー世帯の転出超過数を抑制することを総合指標の1つとして設定しています。

### 視点2 活動の場の創出など、まちの魅力を測る“まちへの愛着”の視点

#### 指標 市民参画指数

まちの課題を解決し、魅力を高めるためには、まちに愛着を持ち、まちづくりに参画する人を増やすことが大切です。そこで、「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」という3つの意欲を組み合わせた市民参画指数を総合指標の1つとして設定しています。

### 視点3 居住地としてのまちの評価を測る“市民の実感”の視点

#### 指標 「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合

市民意識調査による本市のイメージが向上し、近年、本市の人口を取り巻く環境が改善傾向にあるなか、今後も選ばれ続けるまちであるためには、市民の本市に対する満足度が何より大切です。そのため、本市に住んで良かったと感じている市民の割合を総合指標の1つとして設定しています。



まちづくりの  
総合指標



# 総合指標

総合計画全体を測る  
3つの指標を設定。

- 1.ファミリー世帯の  
転出超過数
- 2.市民参画指数
- 3.住んで良かったと  
感じる市民の割合



## 現行の総合指標の課題①

「指標の相関がつかない」

# 本市の各指標の構成

事務事業評価

施策評価

総合計画で進捗管理

各事業の  
アウトプット  
アウトカム

展開方向の  
指標

各施策の  
代表指標

主要取組  
項目の指標

まちづくりの  
総合指標

事務事業評価

施策評価

施策評価（代表指標）

主要取組項目

総合指標

令和9年度事務事業シート(令和9年度決算)

事業名	事業コード	事業種別	事業内容	事業期間	事業費(千円)	実績	評価
...	...	...	...	...	...	...	...

令和9年度 施策評価表(令和9年度決算評価)

施策名	施策コード	施策内容	評価項目	評価結果
...	...	...	...	...

まちづくり基本計画「施策別の取組(各編)」

### 施策目標

まちにかかわるすべての人が、ともに学び、考え、お互いの力を  
出し合う自治のまちづくりを推進することで、まちへの愛着を深  
め、活力あふれるまちをめざします

### 2 施策の展開方向

- ① 地域コミュニティの活性化、生活者の参画
- ② 多岐の分野における市民参加の促進
- ③ 市民の参画の促進
- ④ 市民の参画の促進

### 3 施策の進捗状況を測る代表指標

地域コミュニティの活性化	15.6%	30.0%
市民の参画の促進	78.1%	90.0%

### 1 子ども・教育

子ども・子育て支援の充実

子ども・子育て支援の充実

子ども・子育て支援の充実



それぞれに指標を設定しているが、上位指標と相関する設計にしていない（ロジックモデルではない）

# 各段階での評価と現状

## <指標が繋がらない>

- ・ 上位指標との相関がなく、  
指標が繋がっていない

## <課題>

- ・ 指標が「形だけ」になり、評価が「作業化」し、  
日々の業務で目標指標が意識されない

### 各事業の アウトプット

#### 事務事業評価

相関不明

### 展開方向 の指標

#### 施策評価

相関不明

### 各施策の 代表指標

#### 施策評価 (代表指標)



相関不明

### 主要取組 項目の指標

#### 主要取組項目



相関不明

### まちづくりの 総合指標

#### 総合指標





## 現行の総合指標の課題②

「ファミリー世帯の転出超過数での評価が難しい」

## 現行の総合指標の課題（ファミリー世帯の転出超過数）

### <総合指標①ファミリー世帯の転出超過数>

- 近年の市民意識調査において、「まちのイメージが良くなった」、「安全で安心して暮らせるまち」といった指標は大きく改善し、まちの魅力は高まりつつある一方で、ファミリー世帯の転出超過数は依然として改善していない
- また、近隣における大規模マンション等の住宅開発等の、他律的な要因で、多くのファミリー世帯が市外に転出する事例も確認されている
- 一方、若年層を中心に、単身・二人世帯は転入超過が続いていて、市内に転入した若年層が数年後、市内でファミリーとなり、ファミリー世帯の「総数」は増えている可能性がある

「ファミリーの転出超過数」でまちの魅力を評価するのは難しいのでは。

現在ファミリー世帯は「0-4歳の子どもがいる世帯」と定義しているが、若年夫婦世帯などもターゲットとしていくべきでは。



# 地域幸福度（Well-Being）の試行

# 地域幸福度（Well-Being）指標を試行

<Well-Beingの最上位4指標で幸福度を測定>

【構成する24のカテゴリー】

※尼崎市（2025）のWell-Being指標の数値

Q1. 「現在、あなたはどの程度幸せですか？」

①個人幸福度

Q2. 「あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？」

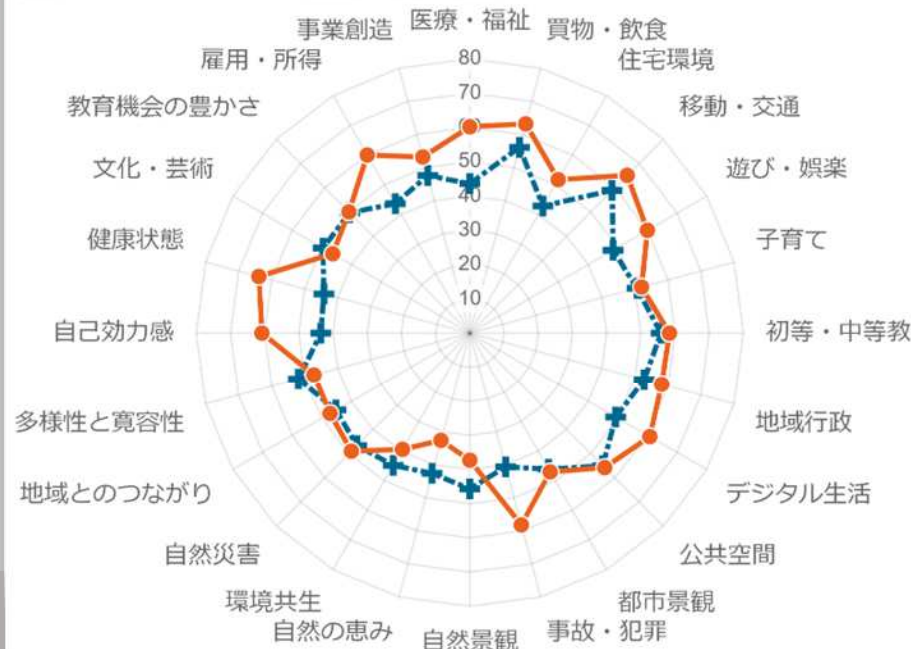
②地域幸福度

Q3. 「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちだと思う」

③周囲幸福感認知

Q4. 「住んでいる地域の暮らしに満足している」

④個人生活満足度



因子	主観	客観
医療・福祉	60.2	43.6
買物・飲食	63.2	56.1
住宅環境	51.7	42.8
移動・交通	65.1	58.9
遊び・娯楽	60.0	48.4
子育て	52.0	50.6
初等・中等教育	58.4	55.9
地域行政	58.1	52.8
デジタル生活	60.8	49.3
公共空間	55.8	55.0
都市景観	47.0	46.1
事故・犯罪	58.2	40.6
自然景観	37.3	45.7
自然の恵み	32.6	42.6
環境共生	39.4	44.8
自然災害	49.0	46.7

— 主観データ  
- - - 客観データ

# デジタル庁「地域幸福度（Well-Being）指標」とは

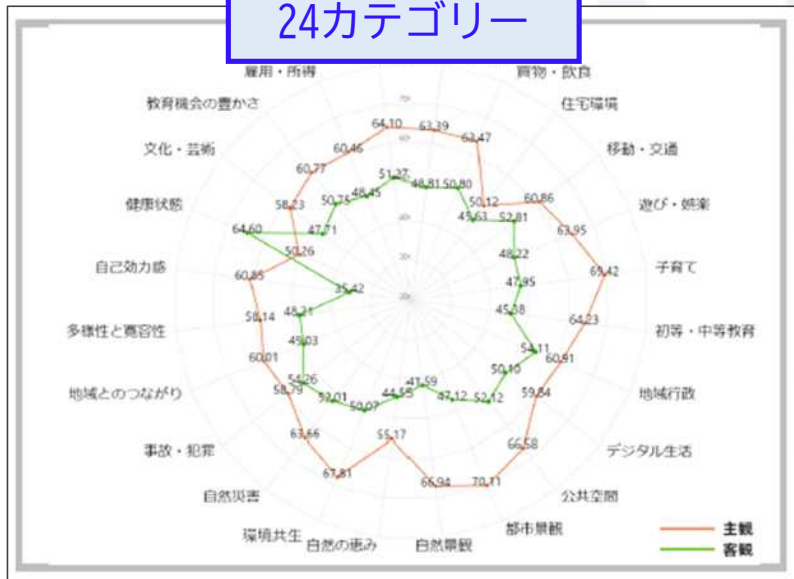
## 4つの最上位指標

- ① 個人幸福度
- ② 地域幸福度
- ③ 周囲幸福感認知
- ④ 個人生活満足度

後期計画の策定に合わせ、  
現在の評価の仕組みを  
Well-Being指標を活用して再構築

50の主観指標・70or200の客観指標

## 24カテゴリー



## 主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度 (4)

- 現在、あなたほどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちだと思いますか？

生活環境 (16)	都市景観 (1)	地域の人間関係 (2)	自分らしい生き方 (6)	
<b>医療・福祉 (2)</b> ■ 医療機関が充実している ■ 介護・福祉施設の利用がしやすい <b>買物・飲食 (2)</b> ■ 日常の買い物に全く不便がない ■ 飲食を楽しむ場所が充実している <b>住宅環境 (3)</b> ■ 自宅には、心地よい居場所がある ■ 【※】自宅の近辺では、騒音に悩まされている ■ 適度な費用で住居を確保できる <b>移動・交通 (1)</b> ■ 公共交通機関で好きなところへ移動ができる <b>遊び・娯楽 (1)</b> ■ 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	<b>子育て (2)</b> ■ 子育て支援・補助が手厚い ■ 子どもたちがいきいきと暮らせる <b>初等・中等教育 (2)</b> ■ 教育環境（小中高校）が整っている ■ 通学しやすい場所に学校がある <b>地域行政 (2)</b> ■ 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている ■ 公共施設は使い勝手良く便利である <b>デジタル生活 (2)</b> ■ 行政サービスのデジタル化が進んでいる ■ 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい <b>公共空間 (2)</b> ■ 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい ■ まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	<b>都市景観 (1)</b> ■ 自慢できる都市景観がある <b>事故・犯罪 (2)</b> ■ 防犯対策（文庫・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい ■ 歩道や信号が整備されていて安心である <b>自然景観 (1)</b> ■ 自慢できる自然景観がある <b>自然の恵み (2)</b> ■ 身近に自然を感じることができる ■ 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいと感じる <b>環境共生 (1)</b> ■ リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである <b>自然災害 (1)</b> ■ 暮らしている地域では、防災対策がしっかりとれている	<b>地域とのつながり (5)</b> ■ 私は同じ町内に住む人たちを信頼している ■ 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである ■ 困ったときに相談できる人が身近にいる ■ 町内の人々が困っていたら手助けすこのまに愛情を持っている <b>多様性と寛容性 (5)</b> ■ 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ■ 私は見知らぬ他者であっても信頼する ■ 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているか気になる ■ 女性が活躍しやすい ■ 若者が活躍しやすい	<b>自己効力感 (1)</b> ■ 自分のことを好ましく感じる <b>健康状態 (2)</b> ■ 身体的に健康な状態である ■ 精神的に健康な状態である <b>文化・芸術 (2)</b> ■ 文化・芸術・芸術が盛んで誇らしい ■ 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい <b>教育機会の豊かさ (1)</b> ■ 学びたいことを学べる機会がある <b>雇用・所得 (2)</b> ■ やりたい仕事を見つけやすい ■ 適切な収入を得るための機会がある <b>事業創造 (1)</b> ■ 新たなことに挑戦・成長するための機会がある

# デジタル庁「地域幸福度（Well-Being）指標」とは

## 【総合指標と主観指標】 多くの主観指標は幸福度や生活満足度等と相関

		幸福度	5年後の幸福度	生活満足度	町内の幸福度	周りも楽しい
医療・福祉	医療機関が充実	0.32	0.33	0.76	0.66	0.59
医療・福祉	介護福祉サービス良	0.34	0.35	0.75	0.68	0.62
買物・飲食	買い物に不便がない	0.31	0.33	0.75	0.64	0.57
買物・飲食	飲食を楽しめる	0.25	0.32	0.71	0.63	0.57
住宅環境	自宅に心地のいい居場所	0.58	0.57	0.79	0.72	0.69
住宅環境	【逆】騒音に悩まされている	0.05	-0.04	-0.24	-0.15	-0.10
住宅環境	適度な費用で住居を確保	-0.06	-0.11	-0.42	-0.39	-0.36
移動・交通	公共交通の移動良	0.36	0.34	0.76	0.64	0.58
遊び・娯楽	娯楽施設がある	0.31	0.34	0.76	0.66	0.60
子育て	子育て支援が手厚い	0.29	0.30	0.69	0.62	0.60
子育て	子どもがいまきと暮らせる	0.42	0.41	0.79	0.74	0.73
初等・中等教育	小中高校が整っている	0.39	0.40	0.79	0.72	0.66
初等・中等教育	通学しやすい学校	0.35	0.35	0.77	0.67	0.62

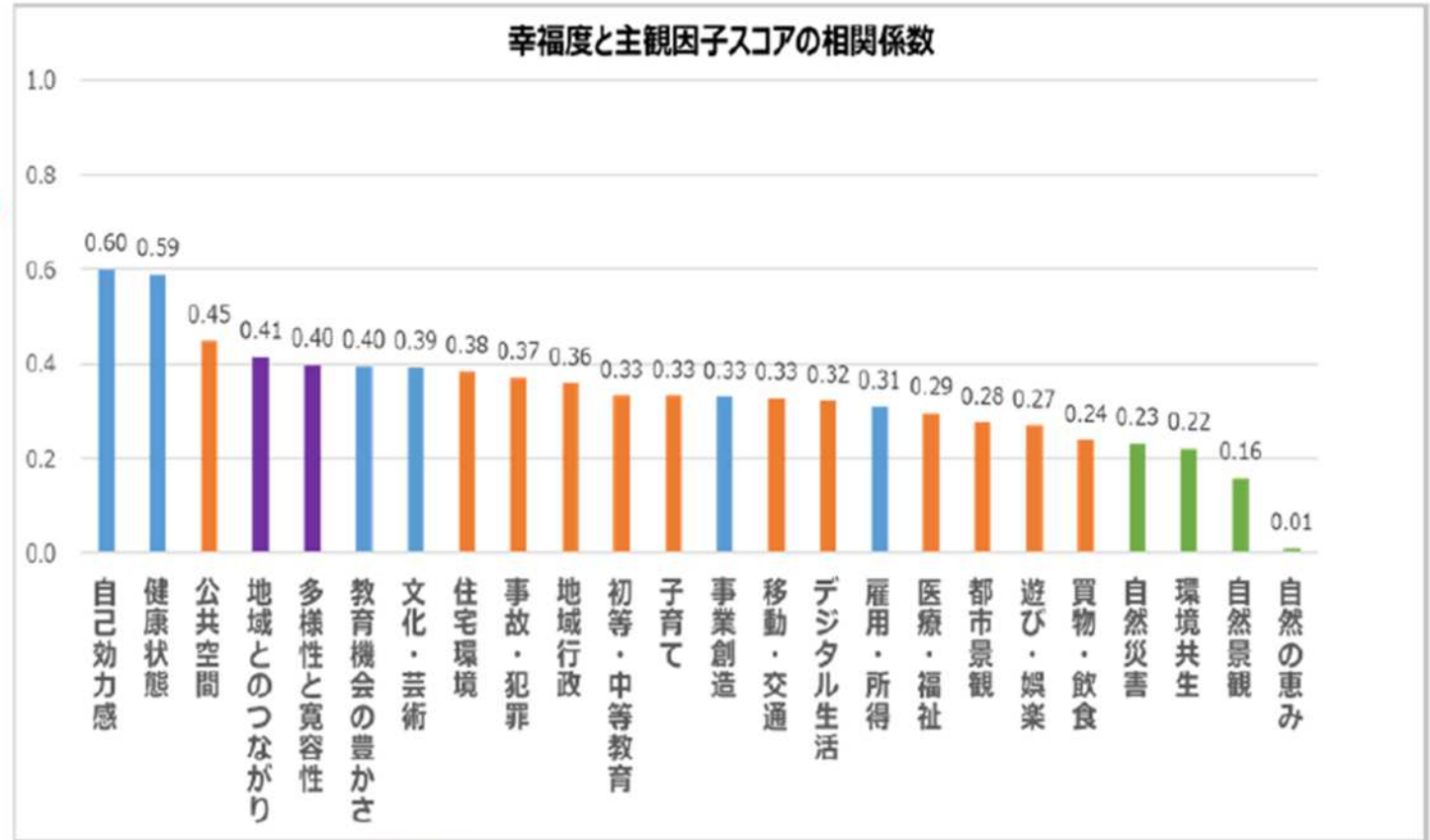
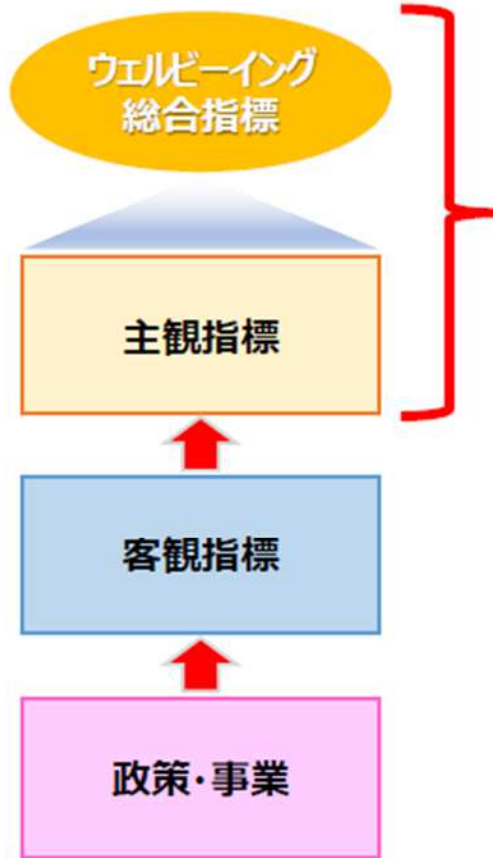
		幸福度	5年後の幸福度	生活満足度	町内の幸福度	周りも楽しい
地域行政	行政は真剣に考えている	0.38	0.37	0.77	0.71	0.68
地域行政	公共施設は使い勝手良	0.38	0.39	0.83	0.72	0.68
デジタル生活	行政サービスのデジタル化良	0.35	0.38	0.74	0.66	0.61
デジタル生活	仕事や日常でデジタル	0.36	0.38	0.80	0.70	0.66
公共空間	雰囲気自分にとって心地よい	0.48	0.49	0.90	0.82	0.80
公共空間	街中や公園等で歩ける場所	0.41	0.36	0.69	0.64	0.61
都市景観	自慢できる都市景観がある	0.31	0.33	0.62	0.63	0.58
自然景観	自慢できる自然景観がある	0.17	0.16	0.14	0.22	0.25
自然の恵み	身近に自然を感じる	0.05	0.02	-0.24	-0.11	-0.05
自然の恵み	空気や水はきれい	-0.05	-0.07	-0.32	-0.20	-0.15
環境共生	リサイクル等環境への取組良	0.24	0.24	0.46	0.47	0.47
自然災害	防災対策がしっかり	0.26	0.26	0.63	0.59	0.59
事故・犯罪	防犯対策・治安が良	0.43	0.41	0.81	0.77	0.73
事故・犯罪	歩道や信号が整備	0.36	0.37	0.79	0.74	0.69

18

地域幸福度（Well-Being）指標なら「主観評価」と「最上位指標」との相関が確認できる

# 「幸福度」と主観24因子のスコアの相関性

【ロジックモデル】



地域幸福度（Well-Being）指標なら「主観評価」と「最上位指標」との相関が確認できる

# EBPMの視点に基づく新たな行政評価の仕組みづくり

- 地域幸福度（Well-Being）を活用し、「ファミリー世帯の転出超過数」ではなく、例えば、「ファミリー世帯の幸福度」「若年夫婦の幸福度」で評価すれば、住宅供給状況等の外部要因に左右されない評価が可能になる。
  - 指標がどのように上位目標と関連しているかが測定しやすくなる。
  - ロジックモデルを作成することで、事業の企画立案時に、最終アウトカム（KGI）を意識して設計できる
- 今後、新たな評価の仕組みを検討していきます。

# お願いしたいこと

## ここまでの内容

- ・ 現行の行政評価の仕組み
- ・ 現行の総合指標の課題
- ・ 地域幸福度（Well-Being）の試行や今後の方向性

などについて

コメントやご意見等がありましたらお願いいたします



# 今後のスケジュール案

# 後期まちづくり基本計画策定に向けたスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
4月 第6次総合計画 始動		2月 第6次総合計画点検報告書策定	3月 後期まちづくり基本計画 諮問	5月 後期まちづくり基本計画 答申 6月 後期まちづくり基本計画 議決
総合計画の推進、計画期間PDCAについて 総合計画審議会において点検			後期まちづくり 基本計画策定	

# 後期計画策定作業スケジュール（案）

	R 7年度	令和8年度					R 9年度
	3月	4-5月	6-9月	10-12月	1月-3月	4-6月	
総会							
専門部会							
市民・有識部会							
分科会 (第1～第3分科会)							
庁内会議・PT							

令和8年3月  
後期計画  
諮問

点検報告書を基に案作成

庁内での検討状況を  
適宜、審議会にて報告・審議

分科会  
(各論ページの  
確認)

分科会  
(各論ページの  
確認)

素案策定

パブリックコメント

令和9年5月  
後期計画  
答申

令和9年6月  
後期計画  
議決

各施策を3つの分科会に分け、  
施策別の取組ページについて議論

※あくまで予定であり変更が入る可能性もあります



以上